

臨床実習	小児歯科学
------	-------

[実習] 第5学年 前後期 必修

《担当者名》 教授/齊藤 正人 准教授/広瀬 弥奈 講師/倉重 圭史 助教/福田 敦史 助教/大友 麻衣子 助教/藤田 裕介 助教/榊原 さや夏 助手/袁輪 映里佳

【概要】

シミュレーション実習では、予防填塞法、フッ化物歯面塗布法、ブラッシング指導を術者と補助の立場で行い、講義と基礎実習で習得した知識・技術の統合を図る。診療参加型実習では、インストラクターの指導のもと積極的に外来診療に携わり、小児歯科診療における定期管理、歯科治療、不協力児に対する歯科的対応などを見学、自験により幅広い知識と技術を習得する。

【学修目標】

人々のライフステージにおける疾患の予防、診断及び治療を実践できるよう、小児歯科における各治療法の基本的知識、技能を修得するとともに歯科保健指導、定期健診の内容と意義を理解する。

「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、豊かな人間性及び優れたコミュニケーション能力を身につけるため、臨床の場における小児の対応法を理解し修得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	シミュレーション実習	PCT systemを用いてフッ化物歯面塗布、予防填塞、保護者へのブラッシング指導を行い基本的知識、技能、態度を修得できる。 (F-3-6- ~)	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 大友 麻衣子 藤田 裕介 榊原 さや夏 袁輪 映里佳
全実習期間	診療参加型実習 レポート・口頭試問	診療参加型実習及びレポート・口頭試問 シミュレーション実習で修得した基本的知識、技能、態度を患者に対してもフッ化物歯面塗布、予防填塞、保護者へのブラッシング指導が実施できる。 (G-3-)	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 福田 敦史 大友 麻衣子 藤田 裕介 榊原 さや夏 袁輪 映里佳

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

臨床実習 で課せられた課題とケース数の総合評価（ミニマムリクワイアメントは別途提示）とする。

注1：未修了の場合、総合学力試験の受験資格が与えられない。

注2：総合学力試験として当分野領域の多肢選択式問題を出題し、正答率60%以上を合格とする（出題数は別途提示）。

【教科書】

「小児歯科学 ベーシックテキスト」永末書店

「小児歯科学 クリニカルテキスト」永末書店

「小児歯科学基礎実習ノート」北海道医療大学小児歯科学分野 編

「小児歯科学基礎・臨床実習」医歯薬出版

4年時に配布した講義プリント

【学修の準備】

自験、介助、見学を行う症例について、その内容を指導歯科医から事前に確認し、その症例に関わる内容を復習しておくこと。（60分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識を小児歯科学の観点から修得する(専門的実践能力)。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を小児歯科学の観点から身につける(プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力)。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を小児歯科学の観点から身につける(自己研鑽力)。

DP4.多職種(保健・医療・福祉)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を歯科矯正学の分野で実践するために必要な知識を小児歯科学の観点から修得する(多職種が連携するチーム医療)。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を小児歯科学の観点から修得する(社会的貢献)。

【実務経験】

齊藤 正人(歯科医師)、広瀬 弥奈(歯科医師)、倉重 圭史(歯科医師)、福田 敦史(歯科医師)、大友 麻衣子(歯科医師)、藤田 裕介(歯科医師)、榊原 さや夏(歯科医師)、蓑輪 映里佳(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

小児歯科学とは、小児の口腔機能の正常な発育を図るために、これを障害する異常や口腔疾患の予防と治療を行い、健全な機能をもつ総合的咀嚼器官を育成し、小児の全身の発育と保健に寄与する科目である。多くの実務経験を背景とした診療技術、効率性を提示することで、優れた教育効果が期待できる内容となっている。